

「関西・新型コロナウイルス医療体制支援基金」へのご寄附の御礼とご報告

公益社団法人 関西経済連合会
会長 松本正義

平素は当会事業に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、さる5月25日の2020年度第2回理事会においてご承認をいただきました「関西・新型コロナウイルス医療体制支援基金」につきましては、事業環境厳しい折にもかかわらず、多くの企業(別添)、関係者の皆様から多額のご寄附を賜り、心から感謝申し上げます。

本基金の用途につきましては、当該理事会において「感染状況の把握、重症化患者への対応体制整備など新型コロナウイルスへの医療体制強化に取り組むための費用の一部に充てていただくため、関西広域連合と協議のうえ 関西の自治体を支援する」こととさせていただきます。その後、関西広域連合等との意見交換を行い、まずは以下のとおり寄附金を活用させていただくことといたしましたので、ご報告申し上げます。

なお、今後新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行に備え、医療体制強化の必要性は引き続き高いと思われますので、9月末までとしていた寄附の募集期間につきましては11月末までに延長させていただきました。

皆様からの貴重なご寄附が、新型コロナウイルスへの対応のために有効に使われるよう、今後とも関西広域連合等と連携し、取り組んでまいります。重ねて厚く御礼申し上げますとともに、引き続きご支援、ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

1. 関西広域連合を構成する2府6県への支援について

本基金の意義を踏まえつつ自治体ニーズの把握に努めるとともに、関西広域連合と協議を重ねた結果、PCR検査車やPCR検査機器など検査に必要な医療機器と、人工呼吸器やECMO(体外式膜型人工肺)、患者搬送用車両など治療・搬送に必要な機器の購入などに役立てていただくことといたしました。9月30日までの振込み金額として、5億4,100万円を見込み算出いたしました。まずは9月1日現在の集計額から3億6,600万円を、関西広域連合の構成2府6県に対して、9月16日に拠出いたしました(今後、複数回に分けて支援の予定)。各自治体への支援内訳と算出方法、用途のイメージについては、**別紙1**をご参照下さい。

2. 関西健康・医療創生会議、関西共同研究プロジェクトへの支援について

関西広域連合と関経連が中心となって2015年7月に設立した「関西健康・医療創生会議」(議長:井村裕夫京都大学名誉教授)から、新型コロナウイルス感染症に関する関西共同研究プロジェクトの立ち上げに向けた支援の要請がありました。本プロジェクトは、京都大学、大阪大学、神戸大学等の大学をはじめ関西の主要な医療機関が参加して、京都大学の本庶佑特別教授を研究統括に、免疫学、ウイルス学、ゲノム医学、臨床医学、医療情報学等、幅広い専門分野から、患者ごとの重症化リスクの判定や、重症化の予兆の診断方法、重症化を防ぐための方策、重症化した場合の治療方法等について研究し、新型コロナウイルス感染症への対策につながる抜本的な治療法を確立するための研究を行うものです。

関経連といたしましては、重症化を防ぐことで人々に安心感を与え、経済活動の回復にもつながる重要な取り組みであると考え、基金の一部1億6,500万円を寄附させていただくこととし、8月27日に公表させていただきました。研究プロジェクトの概要については、**別紙2**をご参照下さい。

「関西・新型コロナウイルス医療体制支援基金」からの自治体への支援について

- ◇関西広域連合を構成する2府6県に対し、9月30日集計で合計5億円規模の寄附を実施する。
 ◇各自治体への寄附金は、複数回に分けて送金する。第1回目として、9月16日に366,000千円を
 拠出した。

<9月30日時点集計分寄附額(単位:千円)> ※寄附額は均等配分と各府県の人口比率を勘案し配分

支援先	均等配分額 (A)	人口割配分額 (B)	うち第1回 寄附額(C)	寄附額計 (A+B)	うち第1回 寄附額(A+C)
滋賀県	15,000	26,971	15,760	41,971	30,760
京都府	15,000	49,829	29,116	64,829	44,116
大阪府	15,000	168,737	98,597	183,737	113,597
兵庫県	15,000	105,654	61,736	120,654	76,736
奈良県	15,000	26,043	15,218	41,043	30,218
和歌山県	15,000	18,394	10,748	33,394	25,748
鳥取県	15,000	10,946	6,396	25,946	21,396
徳島県	15,000	14,426	8,429	29,426	23,429
計	120,000	421,000	246,000	541,000	366,000

- ◇各自治体には、関西広域連合を通じ、寄附金は下記の用途に使用していただくよう要請し、使用
 後には報告をいただくこととしている。

<自治体における寄附金の用途例>

		用途内容	医療機器・物資の一例
感染状況の把握	第1 分類	新型コロナウイルスの疑いがある患者の 検査 に必要な医療機器	PCR検査車 PCR検査ボックス PCR検査機器 等   
	第2 分類	新型コロナウイルス感染者の 治療・搬送 に必要な医療機器	感染患者搬送用車両 人工呼吸器 ECMO（体外式膜型人工肺） 等   
	第3 分類	医療従事者が診断・治療時の 感染防止 に必要な医療物資	・N95マスク ・フェイスシールド ・防護服 等、府県が独自で調達する医療消耗品

新型コロナウイルス感染症に関する関西共同研究プロジェクトの実施について

この度、関西健康・医療創生会議（議長：京都大学井村名誉教授、事務局：関西広域連合）の下、関西の大学、研究機関、医療機関に在籍される免疫学者やウイルス学者等の方々が連携し、京都大学本庶特別教授を研究統括として、新型コロナウイルスへの対策に関する研究を行うこととなりました。

関西経済連合会は、わが国および地域経済社会の健全な発展に資する取り組みへの協力、支援事業を行っていく一環として、本取り組みが新型コロナウイルス感染症対策に非常に重要な意味を持つと捉え「関西・新型コロナウイルス医療体制支援基金」での支援（寄附）を行うことといたしました。

1. 研究の意義

(1) 関西の強みの結集

関西には免疫学の有力な研究者、研究機関が多く存在する。本研究ではその関西の強みを結集し、組織を越えて横断的に取り組む。

(2) 新型コロナウイルス感染症に対する抜本的な対策

重症患者の増加が懸念される中、新型コロナウイルス感染症の根本的な解明が望まれている。本研究は、免疫学、ウイルス学、ゲノム医学、臨床医学、医療情報学等、幅広い専門分野から新型コロナウイルスを研究することにより、患者ごとの重症化リスクの判定や、重症化の予兆の診断方法、重症化を防ぐための方策、重症化した場合の治療方法等について、基礎的かつ体系的な研究に裏付けられた対応方法を導き出すことで、抜本的な対策に資する。

2. 研究の概要

(1) 研究目的

新型コロナウイルス感染症は、全世界で予防ワクチンや抗ウイルス薬の開発が試みられているが、そのウイルスや感染症、免疫などのメカニズムについては、詳細が解明されておらず、短期間での予防法や治療法の開発の見込みはそれほど高くない。

したがって、免疫反応等から重症化メカニズムを解明し、新型コロナウイルス感染症への抜本的対策に資するため、今回の研究を立ち上げる。

(2) 研究体制

[研究統括] 京都大学 本庶 佑 特別教授

[参加大学・機関] 京都大学、大阪大学、神戸大学、京都府立医科大学、理化学研究所、ライフデータイニシアティブ（LDI）、関西の主要な医療機関

(3) 研究内容

免疫応答解析、自然免疫異常解析等の免疫に関する研究に加え、病態解析や治療法開発、医療情報解析等多面的に新型コロナウイルスに関する研究を行う。

(4) 研究期間

2020年10月～2022年7月（予定）

3. 関西・新型コロナウイルス医療体制支援基金による研究プロジェクトへの支援について

(1) 支援の理由

新型コロナウイルス感染症の重症化を防ぐ手立てを確立することが人々の安心感につながり、経済活動の回復には不可欠であると考え支援を決定した。

(2) 支援金額

1億6,500万円（予定）

<参考>

関西健康・医療創生会議について

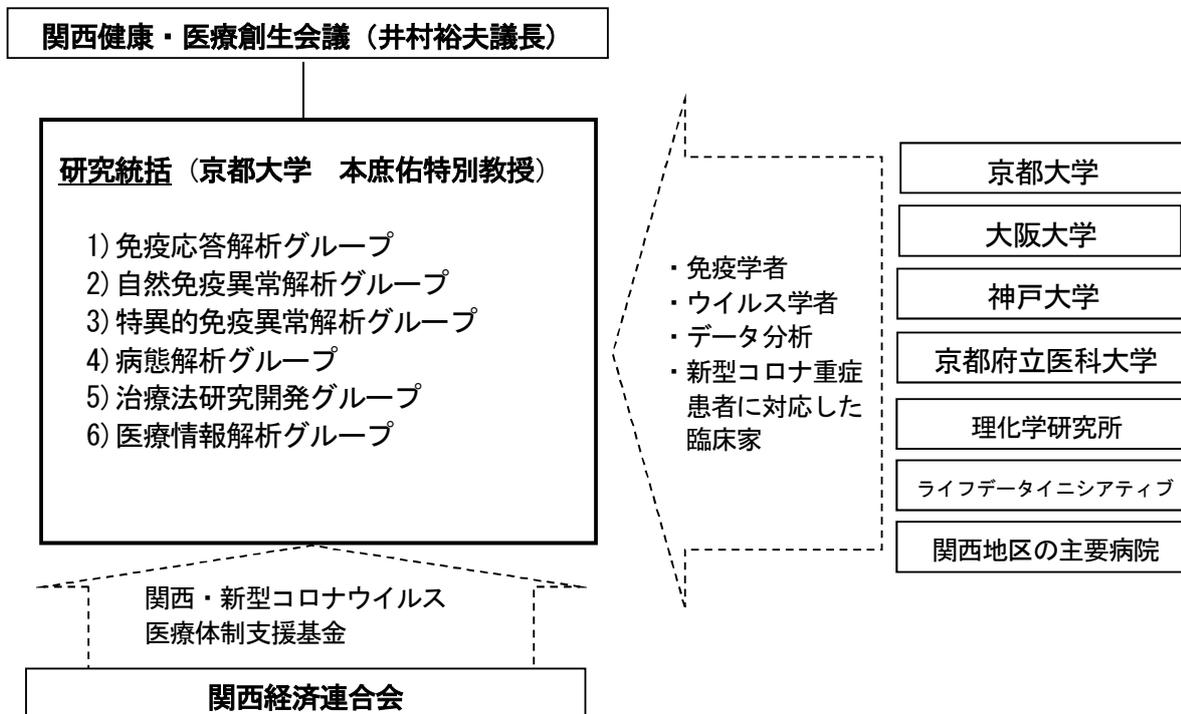
- ・関西地域の健康・医療の推進、またその関連産業の振興に関する課題に対して意見交換・情報発信を行っている会議体。（事務局：関西広域連合）
- ・関西広域連合の構成自治体、経済団体、関西の大学・研究機関のメンバーで構成され、健康・医療データの利活用の促進、そのために必要となる人材育成をテーマに活動を行っている。
- ・今般の、新型コロナ感染症拡大に伴い、感染症への対策も大きな課題としてテーマに取り上げ活動を行っている。

以上

<研究プロジェクトの概要>

1. 研究組織

関西健康・医療創生会議（井村裕夫議長）の下、本庶佑特別教授（京都大学）を研究統括とし、京都大学、京都府立医科大学、大阪大学、神戸大学等の精鋭の免疫学者やウイルス学者等と、関西地区の主要病院で新型コロナ重症患者に対応してきた第一線の臨床家による研究組織を創設。



2. 主な研究概要

①免疫応答解析

・パスツール研究所の COVID-19 エピトープパネルを用いて抗体価を正確に測定し、感染者との接触による感染リスクを算定する科学的根拠を入手する。

②自然免疫異常解析

・新型コロナ感染症の病態振興過程における様々な自然免疫反応から誘導される全身反応を解析する。

③特異的免疫応答異常解析

・多元的な免疫学的解析を行い、数理解析モデルを用いた回復、重症化、再燃予測バイオマーカーの確立、ならびに特異的免疫応答の解明を行う。

④病態解析

・感染者の血液検体ならびに呼吸器臓器細胞から検体採取を行い、細胞遺伝子の発現変動を定量的に計測する。

⑤ 治療法開発

・既存薬投与を受けた新型コロナ感染症患者の病態解析データとコロナウイルスの遺伝子改変から、新型コロナウイルスの病原性の本態を解明し、有望な治療法の開発を試みる。

⑥ 医療情報解析

・千年カルテのプラットフォームを活用し、診療情報の収集と感染患者からの高品質な生体試料の収集を行う。

3. 研究スケジュール

2020年10月 研究組織の立ち上げ

2022年7月 研究成果 取り纏め、報告書作成

(COVID-19 対策の緊急性に鑑み、個別の研究成果については都度できるだけ速やかに公表)